



桃一通信

桃井第一小学校
(3390)3178(代)

No. 684
令和6年 2月号



「学校図書館活用について」

校長 高橋 浩平

能登半島の地震から1か月が経ちましたが、被災地はまだ大変なようです。地震災害でお亡くなりになった方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々にはお見舞いを申し上げたいと思います。始業式でも子供たちに話しましたが、改めて「ふつうに生活を営めること」のありがたさを感じます。

話は変わりますが、1月末の学校公開には多くのご参観、ありがとうございます。書き初め展も見ていただけたでしょうか。今回からアンケートをFormsで取る形に変更しました。学校もペーパーレス化に向けて、今後さらにこうした方向で進めていくことになると思います。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

さて、本校は、今年度「令和5年度杉並区学校図書館活用実践校」として教育委員会の指定を受けて一年間活動してきました。具体的には、「学校図書館を活用した情報活用能力の育成」を目指して、体系的な計画の作成と高学年を中心として教育データベースの活用を進めました。区から予算をいただき、ポプラ社のSagasokka!百科事典(4～6年)と朝日新聞社の朝日小学生新聞デジタルforSchool(5, 6年)を導入しました。

検証授業として4年生では国語「伝統工芸のよさを伝えよう」で、5年生は国語「新聞を読もう」で、6年生は国語「日本文化を発信しよう」で、それぞれタブレットを活用してデータベースを使った授業を行いました。タブレットの使い方から始まり、タブレットをどのように使用してデータベースを活用するか、などを学習しました。

これからの子供たちは、当たり前のようにデジタルを活用し、情報処理能力を高めていくことになると思います。まずは経験すること、そして、経験する中でメリットとデメリットを意識すること、メリットをよりよく活用していくこと、が大事になります。

こうしたことは「メディアリテラシー」という言葉で説明されることもあります。「メディアを主体的に読み解く能力、メディアにアクセスし、活用する能力」と解説されますが、このメディアリテラシーがないと、誤った情報や偏りのある情報をうのみにしてしまう危険性があります。今でもYouTubeやTiktokなどには大小さまざまな情報が氾濫しており、その正誤についても、微妙な情報もあります。だからといって、そうした物を見せない、かかわらせない、さわらせない、ということもこれからは難しいでしょう。実際にこれからのAI時代に、デジタルのメディアとどう付き合っていくのかがいいのかは、私たち大人でも悩むところです。とりあえずは、人と人とのコミュニケーションの問題と合わせて、「正しいかかわり方とは何だろう」ということを考え続けること、かなと感じています。

一方で、「本を読む」「活字を読む」ということも大事にしたいなあ、と思います。その意味で桃一小の学校図書館は、アナログもデジタルも大事に実践を進めていきたいと思っています。



令和5年度 桃一小あいさつ標語大賞

あいさつキャンペーンの一環として、今年もあいさつ標語の取り組みを行いました。

入選作品を紹介します。なお、入選作品は校長室前に掲示しています。

- 1年 おはようで きょうはいい日に なりそうだ
- 2年 ありがとう きみの思い つたわった
- 3年 あいさつで えがおあふれる 桃一小
- 4年 あいさつは 人と人との えんむすび
- 5年 ともつなぐ 一人一人の あいさつよ
- 6年 あいさつで 小さな愛が ふえていく



2月の生活目標 「健康に気をつけよう」

今月の生活目標は「健康に気をつけよう」です。

子供たちはインフルエンザなどの感染予防に努めながら、毎日元気に過ごしています。

寒い日が続き、水が冷たいからと言って手洗いがいい加減になっていないでしょうか。また、寒いからと言って、窓やドアを閉め切ったままにしていないでしょうか。「手洗い、うがい」は、いろいろな感染予防のためだけでなく、健康の基本です。換気もしっかりと行い、新鮮な空気を取り入れましょう。学校では、寒い日でも外遊びに出るように声をかけるなど、子供たちが健康な体を作っていけるように過ごしていきます。

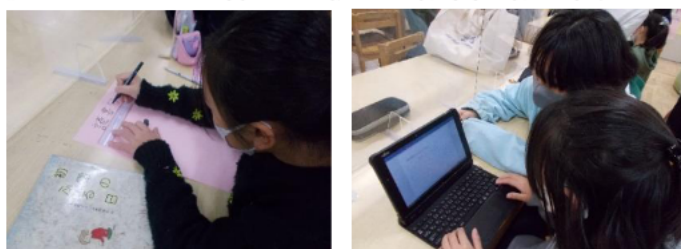
ご家庭でも、声をかけていただけると助かります。また、手洗い用に清潔なハンカチを持つように確認をお願いします。

(生活指導部)



読書旬間 ≪2月5日(月)～17日(土)≫

桃一小では6月と2月の年に2回、2週間の読書旬間があります。この期間中は、朝の8時30分から10分間の校内一斉の読書タイムとなり、子供たちはそれぞれ本の世界を楽しんでいます。図書委員会の取り組みとして、ポップを作成しておすすめの本を紹介したり、ポスターを掲示して読書旬間を呼びかけたりもしています。今年度新しい取り組みとして貸し出しのポイントカードも作成予定です。読書旬間の活動を通して、読書の幅を広げてほしいと思います。ご家庭でもテレビを消して、親子で読書や読み聞かせを楽しむ時間をもってください。



(図書館部)





＜学校図書館の役割について＞

学校図書館には読書センター、情報センター、学習センターという3つの役割があります。調べ学習を図書館で行うことで、子供たちは6年間で様々な情報資源の利活用について学びます。今年度は学校図書館活用実践校としてデータベースを活用した調べ学習も行いました。例えば1年生では、国語科の「うみのかくれんぼ」や「じどう車くらべ」の学習で、自らの調べたい内容を文献から探し、必要な情報を書き出す練習をしました。今後はより多くの情報から調べたい内容を選択する能力や、デジタルコンテンツを利用した調べ学習に挑戦していきたいと考えています。今後も学校図書館としての機能を充実させて子供たちの学びが豊かになるように支えていきます。

（図書館部）



桃一小の研究

学校教育目標の「よく考える子」を受け、国語の研究が3年目となりました。今年度も「言葉による見方・考え方を働かせ、自分の考えを表現できる児童の育成」をテーマに研究を進めてきました。低・中・高学年という分科会に分かれて、児童の実態を話し合い、3回の研究授業を行いました。

考えを表現するためには、豊かな語彙の獲得が必要だと考え、朝の読書タイムを設定し、図書館部と連携した読書カードや読んでみようカードなども活用してきました。様々な本と出会うことで「言葉」を大切にする読みに繋がったのではないかと思います。また、研究授業では、文学的な文章の教材を扱うことを継続しました。自分の考えを書くこと、話すことを通して表現することを意識した授業づくりを行ってきました。3年間の研究を通して、叙述の言葉に注目して考えることや個人課題を設定したり、一つの言葉を探求したりする学習に取り組むことができました。授業を重ねるごとに「言葉」を意識し、友達と伝え合うことで、さらに自分の考えを深められました。

（研究部）